

質問

学校建設の6億円増額について ていねいな説明で町民の理解を



角 谷 勉

答 弁 町民にていねいに説明する

問 入札が不調となり、6億円という高額な建設費が急ぎよ増額され、町長は「議会で承認を取り、入札が決まったら、町民の皆さんが理解できるまで、丁寧に説明する」と約束をされた。広報にて、6億円に関して、「大きな要因として、東日本大震災の復興需要による職人不足や資材、機材の高騰による」とだけで、多くの町民から「6億円増額の内容が理解できない」との声を聞く。内容を説明するべきでは。

答 議会において入札前であり具体的な設計金額はひかえた。業界の話なので説明できることでできないことがあるが、説明する機会を作る。

問 自分の家を建てる時、貯金と返済計画に基づいた借入金の範囲内で検討する。急ぎよ予定価格が上がる場

合は、なぜ上がるのか、もし資材の高騰によるなら何がいくら上がったのかを検証する。当初、町民には38億円以内と説明し、その後3億円増額され、さらに昨年度6億円、計9億円が増額された。しかも、一度議

質問 観光産業の活性化は湯沢町 観光振興計画の具現化で

答 弁 町民への周知を図り、町全体で取り組む

問 今後の観光振興策、湯沢町観光振興計画「案」が策定されたが、具現化することが目的と考える。新「観光振興計画」には具体的な目標、年次計画、予算の裏付けが明記されておられない。「観光振興計画策定委員会」は解散したが、どのような方法で具現化していくのか。

答 年次計画はそれぞれの基本戦略に実施者と期間を明記してある。予算や優先順位は毎年各課で優先順位をつけて予算化している。今後、具体策は町職員が観光振興計画の方針に基づいて具体策を立てる。町民にはダイジェスト版を作成し、配布する予定である。

問 「新観光振興計画」では「地域資源を活かした通年観光の魅力づくり」をトップに挙げている。湯沢・神立・土樽・苗場各ぐらの各地域の特徴を活かし、「観光資源を地域ごとに整備開発する」と書かれ、その各地域の考え方は従来の観光振興計画を踏襲している。

会で否決され、その後わずか1票差で可決されたという経緯もある。丁寧に説明すべきと考えるが。

答 機会をとらえて町民の皆さんに説明するつもりである。

従来の観光振興計画には〈地域別観光地の現状と今後の戦略の考え方〉が明記されており、湯沢・神立地域、土樽地域、三国・三保地域の具体的な観光資源とその資源を活かした発展的な方向、さらに町の整備の方向性まで示されている。前観光振興計画は14年前に策定されたもので、現在は

地域の方々が自ら努力し、整備している観光資源が数多くある。

たとえば、浅貝の水芭蕉群、原地区の水芭蕉、土樽地区のカタクリの里、ほたるの里、観光きのこ園、魚野川での川遊びなどなど。地域に応じた観光資源を、地域の方と協同で充実させていくことが、「地域資源を活かした通年観光の魅力づくり」に直結するのではないかと考える。

各地域の観光協会や地域の方々は、どのような観光振興策が計画されているか、重大な関心を持っている。振興策の周知はどのようにするか。

答 各地域をどのように具現化していくかは民間ですることと考える。各地域自分で商売されている方々の仕事である。民間の仕事について観光振興計画ではうたっていない。

問 新観光振興計画に各地域の特色を活かし、「観光資源を地域ごとに整備開発する」。各地域についての考え方は従来の観光振興計画を踏襲すると書かれているので、どのような方法で周知するかを質問している。

答 観光振興計画のダイジェスト版とともに周知徹底

底を図る。

問 新観光振興計画は「課題も観光資源」も前観光振興計画と同じであるから、基本的な考え方「地域資源を活かした通年観光の魅力づくりや整備を図る」当然これも同じである。14年前と同じことを問題視しているのではありません。

前観光振興計画は大変優れている計画だと思う。問題なのは、このすばらしい前観光振興計画が町民にも各地域の観光協会にも、さらに職員にも、おそらく議員にも、周知徹底されず机の中に眠っていたことではないか。観光立町の今後の方向性を示した観光振興計画に町民全員で大きな関心を持ち、より身近なものとしてとらえ町全体で取り組んでいただくことが大切と考えるが。

答 自分の町にどのような観光資源があるかお客様より知らない人もいます。町観光協会に、地域別に、春夏秋冬ですばらしい観光の場所を案内する機会を作ることがを要望したい。